

# 文化芸術交流事業に必要な経費

## 文化協力事業費

### 1. 催し等事業費

(1) 文化協力（主催）

(2) 文化協力（助成）

文化協力事業費

1. 催し等事業費 / (1) 文化協力 (主催)

海外の無形及び有形の文化財保存に協力するため、専門家の派遣・招へい、国際共同研究、専門家会議、セミナー、ワークショップ等を実施する。

合計額 15,855,902 円

事業名	氏名	現職	対象国	共催・協力機関	期間	事業内容
1 博物館運営支援(派遣)	青木 繁夫 小林 公治	サイバー大学世界遺産学部 教授 九州国立博物館文化財課資料管理室室長	モンゴル	在モンゴル大使館	2010.10.09 ~ 2010.10.24	カラコルム博物館の開館を前に、新たに採用された博物館員他に対して博物館運営や展示物・遺物の維持管理に関する知識や技術のスキル・アップを目的に、専門家2名を派遣し、ワークショップ研修を実施。青木繁夫は、博物館資料保存を、小林公治は資料展示を担当
2 日本の伝統工芸品展示支援(招へい)	Dorota Roz-Mielecka	ブロッツワフ国立博物館東洋美術部門キュレーター	ポーランド	関鍛冶伝承館 石川県立博物館 石川県立輪島漆芸技術研究所 刀剣博物館 東京国立博物館	2010.11.04 ~ 2010.11.25	ヴロツワフ国立博物館が2011年上半期に刀剣展を、2011~12年にかけて漆器展を開催予定であることから、その展示準備等に向けた知見と技術を習得させるため、ドロタ・ルシ・ミエレツカ(同博物館東洋美術部門キュレーター)を3週間日本に招へい。日本の伝統工芸(特に刀剣、漆器)について研修を実施
3 樺太時代の文化遺産保存・修復支援(派遣)	角 幸博(かど・ゆきひろ) 伊藤雅彦 渡辺一幸 八木真爾 飯田信男 林文浩 疋良一	北海道大学大学院工学研究科特任教授・名誉教授 株式会社伊藤 北電総合設計株式会社 株式会社佐藤総合計画 飯田ウッドワークシステム 株式会社梵陶石 ファインテクノ	ロシア	在ユジノサハリンスク総領事館	2010.10.05 ~ 2010.10.09	ユジノサハリンスクに現存する史跡・文化遺産(拓殖銀行大泊支店等の歴史的建築物)の保存・整備に係わる建築専門家7名を派遣し、現地調査を実施

## 文化協力事業費

	事業名	氏名	現職	対象国	共催・協力機関	期間	事業内容
4	柔道人材育成支援 (派遣)	山下 泰裕  井上 康生	柔道家／東海大学 体育学部 学部長  柔道家	イスラエル  パレスチナ	在イスラエル大使館	2010.07.17 ～ 2010.07.23	在イスラエル大使館の要請に基づき、山下泰裕による講演、井上康生による柔道指導及びイスラエル・パレスチナ合同の柔道教室を実施。本事業を通じて、イスラエル・パレスチナ両国の交流を促進することにより、両国の柔道の担い手育成と技術的蓄積を支援するとともに、中東和平の進展に貢献することを目的とする
5	イラクにおける日本写真展 <i>Japan the Land of Gold, as I saw it</i> 開催協力	Fuad Shaker	写真家	イラク	イラク文化支援協会(Iraqi Cultural Support Association)  在イラク大使館	2011.03.21 ～ 2011.03.30	本年度「文化人招へい」プログラムで来日したイラク人写真家ファード・シャーキルが訪日中(2010.07.26～08.08)に撮影した写真を中心に作品90点をバグダッドのIraq Plastic Artists Societyギャラリーにて展示
6	空手人材育成支援 (派遣)	土屋 秀人	空手家	サウジアラビア	在サウジアラビア大使館	2011.01.11 ～ 2011.03.31	日本の空手専門家によるサウジアラビア空手選手への指導及び教育施設等での演武披露を通して、現地での日本文化の理解を促進
7	カマン遺跡文化財展示・保存支援 (平成21年度事業継続分)	永金 宏文	株式会社ディグ 社長／展示ディレクター	トルコ	カマン・カレホユック博物館	2010.02.28 ～ 2010.04.13	永金宏文を2009年5月19～29日、2010年2月28日～4月13日の2回にわたりカマン・カレホユック考古学博物館に派遣し、同博物館におけるカマン遺跡からの出土品の展示・陳列計画の策定方法を指導し、将来的な現地主導での博物館運営のために現地専門家を指導・育成
8	カマン遺跡文化財展示・保存支援	永金 宏文	株式会社ディグ 社長／展示ディレクター	トルコ	カマン・カレホユック博物館	2010.06.04 ～ 2010.07.18	カマン・カレホユック考古学博物館における博物館遺物展示等設置作業、遺跡資料模型、集落想像復元模型製作指導、写真、説明、図版パネル原案作成、発注、設置指導(トルコ若手学芸員への技術指導)のため、永金宏文を平成21年度に引き続き派遣
9	柔道人材育成支援	永井 多恵子	柔道家	コートジボワール	在コートジボワール大使館	2010.11.25 ～ 2010.12.13	柔道家を派遣し、アビジャンの道場「希望館」において有段者の若手柔道家を対象に柔道を指導

## 文化協力事業費

## 1. 催し等事業費 / (2) 文化協力 (助成)

海外の無形及び有形の文化財保存に協力するため、日本の機関が実施する国際共同事業に対し、経費の一部を助成する。

合計額 14,478,503 円

	事業名	助成対象者 (機関・個人)	対象国	期間	事業内容
1	正倉院所蔵天平文化財復元・復興プロジェクト (派遣)	一般社団法人天平芸術研究所	中国	2010.05.12 ~ 2011.02.22	正倉院に保存されている中国・唐時代の楽器及び衣裳などの文化財を復元・復興するため、日本から専門家6名が訪中。北京中国音楽学院大学、大連大学等の大学や工房で講演・指導を実施。日本から中村芳子 (ファッションコーディネーター)、柘植元一 (東京藝術大学名誉教授)、畠中恵子 (一般社団法人天平芸術研究所理事)、米田雄介 (一般社団法人天平芸術研究所理事)、劉宏軍 (一般社団法人天平芸術研究所理事)、鈴木肇 (中国伝媒大学南広学院教授) の6名の専門家を派遣
2	スラウェシ、ブトン島バウバウ市社会へのウォリオ城考古学調査成果の還元活動 (派遣)	特定非営利活動法人アジア文化財協力協会	インドネシア	2011.01.26 ~ 2011.02.02	東南アジアで最大規模の近世城跡で、膨大な陶磁器が発見された、南東スラウェシ州バウバウ市に残るウォリオ城跡で、その陶磁器の性格、城の構造の解明を目的に協力活動を行い、日本語・インドネシア語併記の発掘調査報告書を刊行。この城には現在でも貴族子孫約1,000名が居住し、城下町であるバウバウ市民にとっても城は精神的な拠り所となっているため、市民に調査成果を分かり易く伝える説明会を行う事業を実施。同事業実施のために日本から坂井隆 (アジア文化財協力協会副理事/台湾大学助教授)、山口裕子 (吉備国際大学講師)、生田滋 (大東文化大学名誉教授)、川口洋平 (長崎県教育委員会文化財主事)、大橋康二 (特定非営利活動法人アジア文化財協力協会理事)、瀧本正志 (福岡市教育委員会文化財主事)、野上健紀 (佐賀県有田町歴史民族資料館) の7名の専門家を派遣
3	カンボジア・オンドルルッセイ村におけるオカリナ製作普及活動 (派遣)	樹 紫苑 (いつき・しおん) 翻訳家/音楽家/オフィス樹エージェンシー 代表	カンボジア	2011.01.23 ~ 2011.01.30	日本の益子焼の技術を使い、コンボンチュナン町のカンボジアの伝統的製陶技術「クメール焼」を復活させ、人々の自立を支援するべく2009年から実施している技術支援の発展事業。外貨獲得のための商品としてオカリナ製作を技術指導。併せて基本的な演奏技術の指導、小学校や孤児院でのプロ演奏などを通じ、オカリナ音楽の楽しさを現地に伝える事業を実施
4	釉薬を用いた高火度焼成技術と様々な成形技術伝達 (派遣)	丸山 武 陶芸家	フィリピン	2010.08.01 ~ 2010.12.28	テラコッタ (素焼き) 技術が主流の現地で、大学生・アーティストを対象に、釉薬を用いた高火度焼成の技術を伝達する事業をドゥマゲッティ市のファウンデーション大学 (Foundation University) にて実施

## 文化協力事業費

	事業名	助成対象者（機関・個人）	対象国	期間	事業内容
5	ホイアン町並み保存II	友田 博通 昭和女子大学国際文化研究所 教授	ベトナム	2010.04.01 ~ 2011.03.31	ホイアン遺跡は、「世界遺産」に登録されたことで観光地として急速に発展を遂げたが、遺跡保存の観点からは危機的状況にあるとユネスコから警告を受けている。ホイアン遺跡管理事務所の保存計画の見直しと能力強化のための支援を実施
6	古代チャンパー音楽の収集と資料化事業（派遣）	ベトナム文化芸術研究所	ベトナム	2010.11.15 ~ 2010.11.25	日本とベトナムの12名の研究者が、両国のチャンパー音楽（日本では林邑楽）を収集し、その比較研究を行なうことでチャンパー音楽と林邑楽の共通性と相違を明らかにする。ベトナムの研究者が日本の収集・保存技術を学ぶことによりベトナムにおけるチャンパー音楽のより良い記録と保存の技術移転を目指すプロジェクト
7	オーケストラ演奏技術の向上のための育成ワークショップ（派遣）	スリランカ交響楽団	スリランカ	2010.10.17 ~ 2010.11.08	外国人プロ奏者及び指揮者による指導が必要な、スリランカ交響楽団の団員に対して、過去に交流の実績があり、その指導に定評がある小林恵子（指揮者／洗足学園音楽大学講師）、木原亜土（クラリネット奏者／The Wind Waveメンバー）が演奏を指導
8	グアテマラ及びホンジュラスにおけるマヤ文明世界遺産の保存活用計画（派遣）	中村 誠一 サイバー大学世界遺産学部 教授	グアテマラ ホンジュラス	2010.04.20 ~ 2011.01.31	グアテマラでの「ティカル国立公園（世界複合遺産）文化遺産保存研究センター建設計画」のグアテマラ文化・スポーツ省の準備プロセスを指導。またホンジュラスでの世界遺産を政府が保全し、文化・観光資源として活用し、平和構築するための政府機関、ホンジュラス国立人類学歴史学研究所へ助言を実施
9	日本美術保存マニュアル作成（招へい）	BARLES BAGUENA, Elena サラゴサ大学哲文学部美術史科 教授	スペイン	2010.08.31 ~ 2010.09.12	和紙や漆という素材からなる日本の工芸品の取扱い方及び基本的保存方法に関するスペイン語マニュアル作成のため、スペインから専門家3名が来日。国内の博物館や伝統技術を受け継ぐ研究所や商店等を訪問して和紙・浮世絵・漆器等の製作工程について理解を深め、また保存技術の研修を受けた
10	ウズベキスタンにおける文化遺産保存修復技術実技講習（派遣）	古庄 浩明 駒澤大学文学部歴史学科 非常勤講師	ウズベキスタン	2010.09.21 ~ 2010.10.15	古庄浩明を始め日本人専門家5名がウズベキスタン芸術アカデミーに赴き、ウズベキスタン共和国で急務となっている若手考古学者や保存修復専門家の人材育成に協力。日本の保存・修復技術の技術移転を図り、またこの活動を通じてウズベキスタンを含む中央アジア諸国と日本との文化遺産保護分野におけるネットワークを構築

## 文化協力事業費

	事業名	助成対象者（機関・個人）	対象国	期間	事業内容
11	世界遺産教育（派遣）	日高 健一郎 筑波大学大学院 人間総合科学研究科 世界文化遺産学専攻長（教授）	シリア リビア	2010.04.01 ～ 2011.03.31	岡本篤志（東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター研究員）、高根沢均（神戸夙川学院大学観光学部講師）、佐藤希美子（筑波大学大学院人間総合科学研究科世界文化遺産学博士後期課程）、水嶋英治（常磐大学コミュニティ振興学部教授）、日高健一郎（教授）の5名がシリアとリビアを訪れ、ダマスカス大学やオマール・アル・ムクタル大学、ガル・ユニス大学、リビア政府考古学局等主に考古学部に在籍の学生を対象に、地域の文化遺産保護意識を高めると共に、日本の国際貢献の事例を示すことを目的とした世界遺産保護のための講義、演習を実施
12	スーダン共和国におけるカジュバルダム水没危機遺跡救済と文化遺産の保存活用に関するプロジェクト（派遣）	関廣 尚世 広島大学石灰岩地帯一人と自然の共生プロジェクト研究センター	スーダン	2011.02.07 ～ 2011.03.03	関廣尚世（せきひろ・なおよ：広島大学石灰岩地帯一人と自然の共生プロジェクト研究センター）、村治笙子（古代オリエント博物館 講師）の2名がスーダンを訪れ、カジュバルダム水没危機遺跡群の現地確認と支援案の立案し、また日本の壁画の専門家と共に、砂岩に描かれた壁画やレリーフの風化や劣化に対する支援案を立案する等で協力。更に文化遺産における長期的な研究者の育成と、保存修復技術を中心とした技術支援を円滑に行っていくための基盤形成を行う事業を実施